

高レベル放射性廃棄物の地層処分は、国際的な共通認識です

▶「地層処分」は国際的な共通認識

高レベル放射性廃棄物の処分方法として、地下深くの安定した岩盤に閉じ込め、生活環境から隔離する「地層処分」が現時点で最も安全で実現可能な方法であることが、国際的に共通した考え方になっています。
地層処分の実現に向けて、実施主体の設立や処分場所の選定、研究開発など、様々な取り組みが各国で行われています。

▶ 諸外国における地層処分事業の進捗状況

諸外国では、処分場を選定するための段階的な調査に20～30年程度という非常に長い時間をかけています。
日本を含め、調査をしている間は放射性廃棄物が一切持ち込まれることはありません。



フィンランド



世界で初めて最終処分場の建設を進めているフィンランドのエウラヨキ町長



ヴェサ・ラカニエミ氏

- 新たな雇用が生まれ、町民の多くが原子力産業に関わる仕事に従事している。
- 町と事業者間で活発、かつオープンな対話が続けられたことにより、信頼関係が構築された結果、町民の多くが最終処分を支持している。
- 調査の結果、農業・観光・不動産価値に対して特にマイナス影響が出ることはない。

スウェーデン



スウェーデンで地層処分を受け入れた元エストハンマル市長



ヤーコブ・スパンゲンベリ氏

- 地層処分場は「ハイテク技術が集まる工業地域」になる、との前向きなイメージが市民と共有できた。
- 処分施設への投資は地域の雇用や生活を向上させる。
- 優れた人材が集まり、研究者や見学者が世界中から訪れる。

「地層処分に関する対話型全国説明会」、
「文献調査報告書の説明会」はこちら



原子力発電環境整備機構 (NUMO)

<https://www.numo.or.jp>

NUMO



Q 最終処分先進国フィンランドが処分地決定に至った理由とは？ → 次回12月12日(日) お答えします